

目的 日本人の今後の食生活における重要な課題の一つとして、「カルシウム摂取不足の克服」が挙げられる。その一手段として、消費者自身が、カルシウムに関する正しい知識・理解を持ち、さらには、自主的に現状の食生活を見直し、改善する方向が望ましいと思われる。本研究は、食教育の中の「カルシウム教育」に重点を置き、前回の報告に引続き、カルシウム摂取推進のための教育・指導のあり方を検討した。

方法 ①カルシウムに関する知識・理解度の調査。②カルシウム含有食品に対する量的な把握の程度の調査。③学校教育における、教科書の中のカルシウムに関する記述の調査。（①、②については、質問紙法で子供から成人に至るまで一貫した調査を行ない、それぞれの知識・理解、量的把握の程度を比較できるようにした。）

結果 ①、②：カルシウムの含有食品、消化吸收を補助する栄養素、生理的機能、欠乏症とも、一般的に割合知られているものに対する正答率は高かったが、その他のものについては、予想以上に低く、また、含有食品に対する量的な把握は、どの対象者も不正確であった。③：小、中、高校の家庭科、理科、保健体育の教科書の記述について調査した。同じ教科でも、出版社によって視点の置き方が若干異なり、記述の仕方も様々であった。また、特に家庭科の教科書の場合は、カルシウムの生理的機能、欠乏症については適度な記述であったが、カルシウム摂取のための直接的な要因となる、含有食品の量的な把握をさせる内容はかなり不足しているように思われた。（企業が発行している、カルシウムに関する消費者教育関係の資料も併せて調査したが、同様の傾向がみられた。）